科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：実力と運と能力主義―私たちに「成功」をもたらすものとは何か？ ILAS Seminar :Self-help, Fortune, and Our Meritocracy			担当者所属職名・氏名	国際高等教育院 准教授　竹澤　祐丈		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	1共21			使用言語	日本語
キーワード	思想史 / 能力主義と運 / 平等と競争 / アファーマティブ・アクション / 親ガチャ						

[授業の概要・目的]

この授業では、社会的な成功や失敗において、本人の努力や、必ずしも本人が制御できない偶然や成長環境などが、どのように関係すると私たちが考えているのかを検討したいと思います。

私たちは競争社会と呼ばれる環境で成長しますが、そこでは、競争の結果を左右する重要な要因を、本人の努力と見なす考え方を知らず知らずのうちに身に着けています。例えば、各種の入学試験や資格試験においての私たちの頑張りを支えているのは、こうした本人の努力を基軸にする選抜方式の存在であり、また本人の努力を評価することを正当と考える価値観です。確かに、本人の努力という私たちの意思が制御できるものに依拠した社会は、本人が制御不可能なものに依拠するコネ社会などよりも望ましく、それは、また弊害を持たないように思われます。

しかしながら、一見、本人の努力だけに依拠しているように見える競争が、その競争以前の条件によって、すでに不平等なものとなっている場合はどうでしょうか。すなわち、スタート地点がそもそも異なっている場合です。例えば、家庭の収入や居住地、あるいは親や保護者の学歴（住んでいる地域や国によっては人種なども）が、競争に立つ段階での自分の資質をかなりの程度、既に決めているとすれば、その競争の過程やルールがいかに公平であったとしても、その結果の公正さを保証するとは言いにくいでしょう。以上のような問題に対しては、その不平等性を是正し、競争の結果の公正さを担保する必要性（各種のアファーマティブ・アクションの必要性）が歴史的には提起されてきましたが、かえって別の種類の不平等をもたらしているという批判も大きくなっています。

近年の日本では、本人の意思では選択できない親（保護者）の存在が与える子供の成育環境への影響を評して、「親ガチャ」という表現も多用されるようになっています。また、2019年の東京大学の入学式で社会学者の上野千鶴子氏が、主としてジェンダー・ギャップ（端的には、男女差別）の存在を強調するために、東大への入学という成功体験を、「あなただけの努力でここまできたわけではない」と断する＜事件＞もありました。どうやら私たちは、競争の機会均等の確保や、競争の結果の公正さの確保という定型的な正当化論のいずれをも、もう一度検討する必要がありそうです。

その議論の手掛かりとしてこの授業が注目するのは、アメリカを代表する政治哲学者のマイケル・サンデル氏が執筆した『実力も運のうち―能力主義は正義か？―』という書籍です。サンデル氏は、私たちが暗黙の裡に前提とする、＜個人の能力は個人の意思と努力によって獲得されると見なす考え方＞にメスを入れる必要性を強調します。彼の議論には、有力大学の入学試験にくじ引きを導入するというアイデアも含まれます。この一見すると突飛な考え方を支えるサンデル氏の理屈に耳を傾ける必要がありそうです。

もちろんサンデル氏の議論は、現代アメリカ社会を念頭に置いた内容ですが、同じような競争観や能力のイメージが支配的な現代の日本社会を反省的に検討する際にも重要な示唆を与えてくれるように思います。他方で、競争は私たちの社会に活力をもたらし、新しい考え方や方法を案出するような、イノベーションをもたらす側面もあります。そして個人の能力をどのように考えるべきか

ILASセミナー：実力と運と能力主義―私たちに「成功」をもたらすものとは何か？(2)へ続く↓↓↓

という問いは、自己責任とは何を意味するのかや、私たちが個人の努力や他者との協力関係をどのように考えるべきかなどの重要な論点をも提起しています。したがって、様々な観点から、努力、偶然、成長環境などが社会的な成功や失敗に与える影響を論じつつも、個人の能力とは何を意味しているのか、そしてそれはどのようにして形成されるのかにまで、検討の射程を伸ばしたいと思います。

　このような社会的に重要な論点を論ずる場は、ややもすると一定の解釈を共有している考え方一色になってしまうことがあります。しかしながら、異なる立場や異なる解釈にしっかりと耳を傾け、真摯な議論を行えるのであれば、どのような見解を持っている人でも大歓迎です。

　以上のような目論見のもと、少人数の親密な空間で、楽しく、そして知的刺激にあふれた議論を行えるような工夫を担当者としてはしたいと思っていますし、参加する皆さんにも同じような配慮と努力をお願いできれば幸いです。

　また精読が一区切りした時には、授業のテーマにかかわる映画やドキュメンタリーを視聴し、議論を深めたいと思います。

　わたしたちは競争や能力主義にどのように向き合えばよいのかについて様々な形で関心のある皆さんの積極的な参加を楽しみにしています。

[到達目標]

この授業では、受講生がこれからの大学生活（やその後の社会生活）で必要な以下の基礎的能力を養うことを目的としています。

１．【文献読解能力】人文社会科学の基礎的文献を読みこなす能力を身に着けること。
２．【対話能力】他者の異論との接点を探りながら議論を進められるようになること。
３．【説明能力】自分自身の意見や解釈を明快に提示できる能力と技術を身に着けること。
４．【調査能力】ゼミでの主題に関して関連事項を的確に調査できるようになること。

[授業計画と内容]

授業の状況によっては、内容を変更するが、概略として以下のように進めます。

第一回：イントロダクションと参加者による自己紹介など

第二から六回：テクストに関する議論

第七回：関連するDVDの視聴とそれに関する議論や、特別教材を用いた議論

第八から十二回：テクストに関する議論

第十三回：関連するDVDの視聴とそれに関する議論や、特別教材を用いた議論

第十四回：残された論点に関する議論

第十五回：フィードバック

[履修要件]

１．WORDなどのワープロ・ソフトを利用して文書が作成できること（もしくは努力中）。
２．ネット環境を利用して検索などができること（もしくは努力中）。
３．電子機器を用いたコミュニケーションができること（もしくは努力中）。

ILASセミナー：実力と運と能力主義―私たちに「成功」をもたらすものとは何か？(3)へ続く↓↓↓

ILASセミナー：実力と運と能力主義―私たちに「成功」をもたらすものとは何か？(3)

[成績評価の方法・観点]

①ゼミナールへの９回以上の出席（この基準を満たさないと、レポートを提出しても単位認定されません）
②討論への積極的参加と、議論の要点と論点をまとめたレジュメの担当（５０％）
③期末レポート（５０％）
　なお、②と③については、到達目標の達成度に基づき評価します。またレポートの形式や課題に関するより詳しい情報は、授業において明示します。

[教科書]

マイケル・サンデル 『実力も運のうち 能力主義は正義か?』（早川書房、2023年）ISBN: 9784150506025（2023年刊行のハヤカワ文庫版を使用します。2021年刊行の単行本ではありませんので、間違えないようにしてください。）

[参考書等]

（参考書）
授業の中で議論の展開に応じて文献を例示します。

（関連ＵＲＬ）

https://www.youtube.com/watch?v=GmLJtxUHFXA(「能力主義は正義か？　サンデル教授、東工大「利他プロジェクト」と対話する」（外部リンク、2021年6月公開）　この書籍の出版を契機に、著者のサンデル教授との対話がなされ、そのうちのいくつかは動画の形でWeb上にあげられています。これもそのひとつで、私たちの思考を刺激してくれます。)
https://www.youtube.com/watch?v=iugjCPB3oz4(「サンデル教授に聞く「能力主義」の問題点。自己責任論の国・日本への処方箋は？【マイケル・サンデル×平野啓一郎特別対談】」（外部リンク、2021年10月公開）　上記の動画と同様です。)

[授業外学修（予習・復習）等]

　授業は文献の精読と議論が柱ですので、日常から、文献読解能力と対話能力とを鍛えるように心がけてください。
　また毎回の授業で用いる素材（書籍の特定部分）については十分に咀嚼して、論点を事前に考えてきてほしいと思います。そして報告を分担する回には、当該書籍のまとめと論点やコメントなどを明確に記載したレジュメを作成してきてください。

[その他（オフィスアワー等）]

　「暗記しては吐き出す」ような受験型の勉強から、「思考力を鍛える」ような学習スタイルへの移行が順調になされると、あるいは、「ひとりでがんばる」だけの孤独な勉強ではなく、「まず一人で考えてみて、その結果について他者と議論をしながら、また考える」という共同作業を含む思考様式を身につけると、みなさんの大学生活が、豊かに楽しくなるのではないでしょうか。このきっかけが、本ゼミナールでの学習や人間関係によって得られることを願っています。所属学部の枠にとらわれずに、積極的に学ぶ気持ちを持つ新入生の参加を期待しています。
　また質問や相談は、大歓迎です。会議などで不在の場合が多いので、電子メール（Takezawa@econ.kyoto-u.ac.jp）で事前に予約することをお勧めします。授業の質問、進学相談、また就学上の問題まで、なんでも遠慮なく相談に来てください。わたしで対応できない問題は、該当する大学内の機関や担当者を紹介します。

[主要授業科目（学部・学科名）]